



祐介の目

No.128

大田祐介（福山市議会議員）

けるため郵便局員が「皆さんこれが最後です、さようなら」という電報を発し集団自決したり、15歳から60歳までの男性は招集され戦闘に参加したりした。さらに避難民を満載した輸送船3

南樺太の戦い

4月13日の日経新聞一面のコラム「春秋」を読んで驚いた。そこには太平洋戦争で国内唯一の地上戦となったのは沖縄戦だったと書いてある。天下の日経がこんな間違いを書くとは夢にも思わなかった。

樺太は1905年のポーツマス条約により北緯50度以南が日本領となり、その後40年間にわたり紛れもない日本の領土だった。昭和20年8月9日にソ連は日ソ中立条約を破棄して、国境を超えて南下してきた。当時約40万人の在留邦人がおり、陸軍の第88師団が守りを固めていた。そしてソ連の侵略から停戦するまでの17日間に沖縄戦と同様の激闘と悲劇があった。

南樺太の戦いは日本の内地で行われた北海道防衛戦であり、民間人を巻き込んだ地上戦が随所で発生し、国境で軍の必死の抵抗で時間を稼ぎ、民間人の2割を脱出させた。その間ソ連兵からの凌辱を避

隻が北海道到着目前でソ連潜水艦の雷撃を受け5千人が犠牲になった上に、捕虜となった軍人は極寒のシベリアに抑留された。

国境では殺到するソ連戦車をたつた一門の大砲で32両撃破した精強部隊もいた。ウクライナの戦いがどのような結末を迎えるか分からないが、同様の戦果を挙げた部隊は未永く顕彰されるだろう。ソ連による無差別空襲、艦砲射撃により多くの民間人が犠牲になる中、ある指揮官は「我々軍人は樺太島民の為、この地を死守する。敵をこの地より一步も入れてはならぬ。住民全員が北海道に渡るまで戦うのが、我々軍人の務めである」と部下に訓示した。

以上によりソ連・スターリンの北海道上陸作戦及び北海道の半分を占領するという野望は打ち砕かれた。77年前の日本で現在のウクライナ・ロシア戦と同じことがあったことを大新聞さえ忘れてしまっているとは誠に残念である。